

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供

# 干布小学校だより

4月号 H29. 4. 22

天童市立干布小学校

校長 柏倉 充

## 「つなぐ・つくりだす」を合い言葉に

### 平成29年度スタート！

校庭の桜や花壇の花々が次々と咲きだし、明るく元気な子供たちをさらに前向きにしてくれています。平成29年度の干布小学校は、児童数134名、職員15名でスタートしました。昨年度は、子供自身の努力とご家庭・地域の方々のご協力のおかげで一人一人の子供に確かな育ちがありました。今年度も教育目標を「心豊かに たくましく伸びていく子供」として、なお一層思いやり深い子供、心身ともにたくましい子供をめざしてまいります。

今年度は特に「つなぐ・つくりだす」を学校生活の合い言葉にして、子供も職員も共に伸びていこうと思います。どうぞ、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いたします。

#### 始業式での校長の話より

新しい学年の始まりにあたり、2つの「学校生活の合言葉」についてお話しします。

##### 一つ目は、「つなぐ」です。

去年は、「つなぐ・広げる・考える」を合言葉に、「勉強したことを他の勉強や生活で使って考えていくこと。」「身の回りの人や社会のいろいろな事に、関心をもって考えること。」「あきらめず、納得いくまで考えること。」ということに、6年生を先頭にみんなががんばりました。その結果、1・2年生は、みんながとつてもなかよしで、友達や先生、そして地域の方など、人に関心をもって明るくかかわれるようになりました。3・4年生は、それぞれの考えを生かして教科の勉強や総合学習をつなぎました。また、友達との感じ方の違いに気付き、言葉で理解することの大切さを学びました。5・6年生は、自分で考え、行動し、振り返ることを繰り返し、思い通りにならない結果であっても他のせいにならず、自分自身の変化を考えるようになっていきました。

「他の人に関心をもって明るくかかわる。」「それぞれの違いを言葉で理解し、勉強に生かす。」「失敗を恐れず、自分で考え、行動し、振り返る。」これらの去年の良さを今年につなぎます。今年も勉強したことを生活で使い、生活での気付きや疑問を勉強に生かしていきましょう。

##### 二つ目は、「つくりだす」です。

まず、みなさん一人一人の違いに気付いたら、それはとてもよいことに気付けたと受け止めます。なぜなら、自分には考えられなかった違ったものの方・考え方を、その相手から学ぶことができるからです。みんな同じだと安心する以上に、自分と違っていることや自分だけが違うことに気付くことは、ものの見方や考え方を広げ、きっと問題解決に向けた新しい考えを生み出すことにつながります。

自分と違うことはとてもよいことだ。そう受け止めて、これから始まる新しい学年の勉強や生活の中で、これまでの勉強を生かして様々な問題や疑問の解決をめざしていく。それぞれに違う友達の見方や考え方を集めて、粘り強く考え続ける。自分の成長も友達の成長も認め合って、みんなが成長する学校生活をつくりだしていきたい。これが「つくりだす」の合言葉に込めた願いです。

#### 職員紹介

校長 柏倉 充

教頭 松田 洋

教務主任 瀬野 淳

養護教諭 高橋 恵里

★横浜市立小学校より

主事 笹 廣祐

★新規採用

なかよし 大石早智子

★天童中部小学校より

1年担任 堀川るり子

2年担任 村形 奈央

3年担任 西塚 真

★天童北部小学校より

4年担任 高橋 聡美

5年担任 深瀬 実

6年担任 武田 美紀

技能主査 菖蒲 修

図書整理 船津 知美

給食業務 鎌田 忍

教育目標

心豊かに たくましく伸びていく子供

つなぐ・つくりだす

めざす子供の姿

- 自ら考え、学び続ける子供
- 思いやりをもち、つながりを深める子供
- 生命を大切にする子供
- ふるさとを愛する子供

経営の重点

重点1 自ら考え、学び続ける子供

- (1) 校内研究「追究する子供 追究するクラス」の日常化  
(教科の見方・考え方と生活の関連)
- (2) 教育内容をつなげ、生活に広げるカリキュラムづくり  
(学びを生かす生活)

考えることをはっきりさせて、見通しをもつ・自分で考える・仲間と考える授業を大事にします。

学んだことが、学校生活に活用できるよう、学級ごとに指導計画「学校生活創造カレンダー」の充実を図っていきます。

重点2 思いやりをもち、つながりを深める子供

- (1) 生徒指導を基盤とした教育活動  
(温かい子供理解に基づく学級経営・いじめの防止・ねらいと評価が明確な特別活動)
- (2) チームでの特別支援教育  
(先手の支援・日常の情報交換や教育相談)
- (3) 実感のある道德教育  
(人間理解を深める道德の時間)

子供がいじめられたと言え、いじめと捉えます。これは軽いことだなどと教師が勝手に決めません。

子供本人の困り感を基に、事前相談も取り入れ、子供と教職員と保護者との3者で取組を共有します。

人間の弱さ、自分の弱さと向き合い、考え、議論する道德の授業を行います。

重点3 生命を大切にする子供

- (1) 読書活動を広げる  
(読書単元の工夫, 充実・PTA活動との連携)
- (2) 健康教育の充実  
(基本的生活習慣形成カリキュラム・体力づくり推進)
- (3) 安全教育の充実  
(情報モラルの育成・判断力育成をめざした避難訓練)

読書の習慣付けを推進します。親子読書もPTAと協力して進めます。

体育的行事を生かし、目標をもって体力づくりができるようにします。

インターネットの使い方や避難訓練を通して、判断力を養います。

重点4 ふるさとを愛する子供

- (1) 保護者との温かいつながり  
(保護者との信頼関係づくり・積極的な情報発信)
- (2) 地域との温かいつながり  
(ねらいを明確にした体験活動・教科とのつながりを生かした地域素材の教材化・年度当初からの計画)

学年通信には、指導の意図、子供の育ちを載せていきます。学校へもご感想をお寄せください。

各種体験活動は、学習の一環なので、必ず「書く活動(手紙・振り返り等)」を組み込んでいきます。